

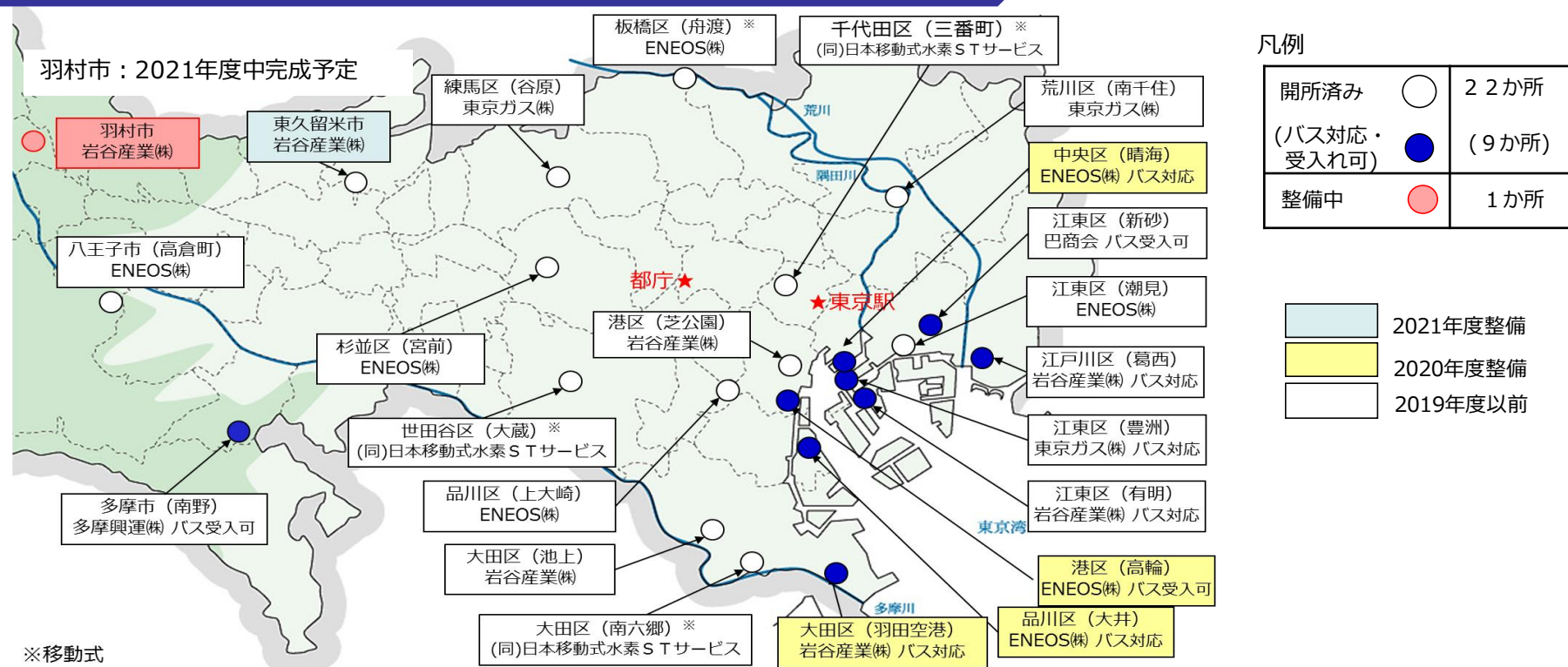
水素エネルギーの普及に向けた 東京都の取組状況

水素ステーションの整備促進

目標

水素ステーション整備箇所数 2030年目標：150か所
 2021年10月末現在22カ所(バス対応6カ所、バス受入可3カ所)
 1カ所で整備中

水素ステーション都内整備状況



都の率先行動

- 葛西水再生センター(下水道局所管)の敷地の一部や、東京都環境公社の事業用地を活用して、水素ステーションを開所

燃料電池自動車・燃料電池バスの普及

目標

【ZEV】2030年都内乗用車新車販売：100%非ガソリン化

※燃料電池自動車（FCV）1,262台（2021年10月末時点 ※補助金交付決定ベース）

【ゼロエミッションバス】2030年までに300台以上

※燃料電池バス（FCバス）85台（2021年10月末時点 ※導入台数）

＜取組内容＞（赤字部分は新設・増額）

補助事業

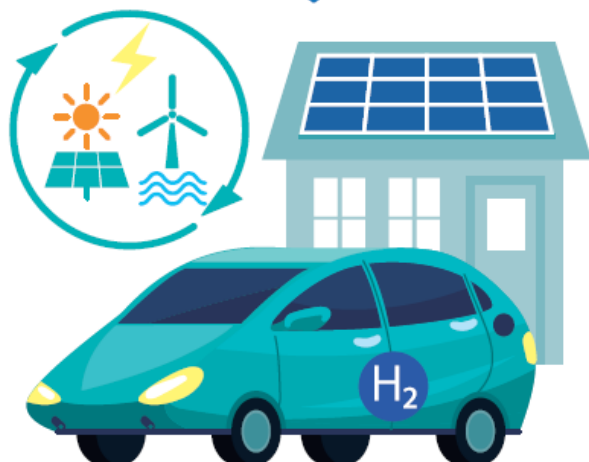
- 燃料電池自動車：110万円（環境省補助と連携した場合 135万円）
- 燃料電池バス：車両本体価格から国の補助金交付額と2000万円を差し引いた額（上限5000万円）
：水素と軽油の燃料価格差の1 / 2
- 外部給電器：購入額の1 / 2（上限40万円）

カーシェア等ZEV化促進事業（カーシェア・レンタカー）

- カーシェア・レンタカー用に導入されるZEVを対象に、費用の一部を助成
- 燃料電池自動車：200万円

新車のFCV車
環境省と東京都の助成金併用で
を**お得に購入**できます!

電力メニューの切替を含む
再エネ100%電力調達で!

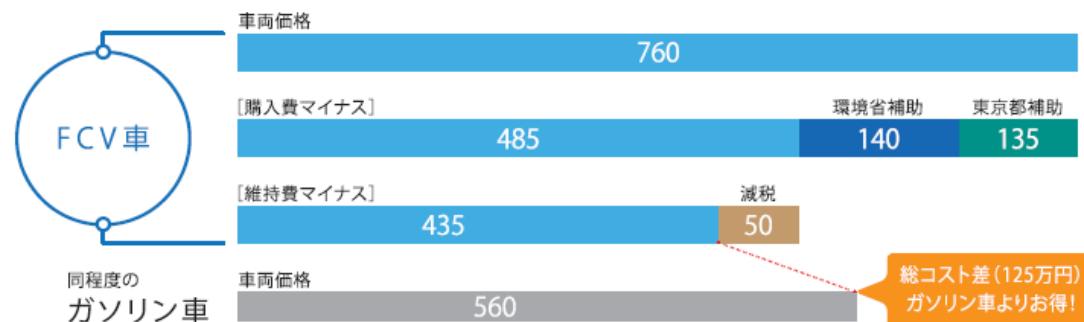


環境省補助 約 140 万円
+
東京都補助 135 万円
= 併用 約 275 万円

※一般的なFCV車の場合

※環境省補助については、
予算額を超過したことから、
令和3年11月8日をもって受
付を終了しました。

一般的なFCV車とガソリン車との「総コスト差」モデル試算(10年間使用した場合)



商用車両における水素活用に向けた取組み

燃料電池ごみ収集車試験運用事業

- 大学提案事業として令和元年度から事業を開始
- 令和2年には早稲田大学、港区と試験運用に向けた協定を締結
- 令和3年度は港区内で試験運用を実施
- 導入効果の検証等実施し、将来的な普及を目指す



家庭用や業務・産業用燃料電池の普及

目標

家庭用燃料電池 2030年までに100万台

業務・産業用燃料電池 2030年までに3万kW

※家庭用燃料電池 6.7万台（2020年度末時点）

業務・産業用燃料電池 約2,500kW（2020年度末時点）

<取組内容>

補助事業

- 家庭用燃料電池：機器費の1/5（上限7万円～12万円）
- 業務・産業用燃料電池：対象経費の2/3以内

水素エネルギー普及に向けた東京都の取組状況 V

様々な水素利活用

「東京水素イニシアティブ」の開催

- 「東京水素イニシアティブ」会議において小池都知事から水素関連企業に東京及び首都圏における水素利用の拡大に向けた一層の取組と、水素技術の更なる社会実装に向けた連携を呼び掛け



（仮称）東京水素ビジョンの策定

- CO2フリー水素を2050年における脱炭素社会の柱とするための「（仮称）東京水素ビジョン」を策定し、水素社会実現に必要な取組を首都圏で加速化

再生可能エネルギー由来水素の活用

再エネ由来水素の本格活用を 見据えた設備等導入促進事業

- ・ 水電解装置、純水素型燃料電池の導入を補助



再エネ由来水素活用のイメージ図

東京2020大会における 福島県産再エネ由来水素の活用

- ・ 選手村のリラクゼーションハウス・居住棟での一部活用
- ・ 聖火台・聖火リレートーチでの一部活用



選手村のリラクゼーションハウス



聖火台

再エネ由来水素 活用促進策等調査検討

- ・ 都内における再エネ由来水素の活用を促進するため今後、都が実施すべき施策等について調査検討を実施

地域における 再エネシェアリングモデル事業

- ・ 再エネ由来水素設備を設置し、再エネシェアリングのモデル実施

都民への普及・浸透

CO2フリー水素の活用に向けた連携

- 再生可能エネルギーを活用して製造したCO₂フリー水素の普及に向けて、福島県、産業技術総合研究所と基本協定を締結し、連携して取組を実施



NEDOとの連携

- NEDOと水素エネルギーの普及に向けた基本協定を締結（2020年1月）。東京都施策に対する技術的知見の提供や、より効果的な情報発信・普及啓発などで連携



- NEDOが実証事業を行う福島県で製造された水素を、都営バスの一部の燃料電池バスで活用。あわせてラッピングバスを運行し、取組をPR（2021年8月～9月）



- 若年層を対象としたオンライン環境学習「高校生のための水素エネルギー教室」を開催（2021年11月～12月）

水素情報館 東京スイソミル

- 子供から高齢の方にわかりやすく情報を提供（2016年開設）

Tokyoスイソ推進チーム

- 官民合わせて約100団体以上で発足し、普及に向けた取組を展開

Tokyoスイソ推進チーム水素エネルギー見える化実行委員会

- 2019年度に「水素エネルギー利用の見える化の取組」（水素エネルギーを活用したイベント等）を実施するために発足（取組期間：2019～2021年度）
- Tokyoスイソ推進チーム加入団体のうち、本事業の趣旨に賛同する団体が参加

【2021年度の主な取組内容】

○小学生向け環境学習オンラインイベント

参加する子どもたちが企業や大学と戦略会議を行い、未来の地球をプログラミングする



○オンラインコンテンツ・診断ゲーム

水素や日常の行動等に関する設問に回答すると、おすすめの楽器を表示

